

2019年度③

# 訴訟法オプション試験

(全 3 ページ)

## 問 題

	ページ
民事訴訟法 ……	1
刑事訴訟法 ……	2

### 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りなさい。

## 民事訴訟法③

I 以下の各問いについて、それぞれ100字以内で答えなさい。(20点)

- (1) 原被告間の主張共通の原則とは何か。
- (2) 主要事実についての自白を撤回できる場合とは、一般にどのような場合か。

II 次の事案を読んで、下記の問いに答えなさい。各問いは独立のものとする。

(80点)

Xが、Yに対して、XY間の消費貸借契約に基づいて200万円の貸金返還請求の訴えを提起した。

- (1) Yは、Xから200万円を借りたのはYではなくZであったからZを被告とすべきであると主張し、裁判所も証拠から消費貸借契約はXZ間で締結されたとの心証を得た。この場合の判決について説明せよ。
- (2) 消費貸借契約がYの代理人によって締結されたかどうかについて、XもYも主張していない場合において、裁判所が、証拠資料から代理人によって締結されたと認定することはできるか。

## 刑事訴訟法③

I 以下の(1)、(2)について、それぞれ100字以内で答えなさい。(20点)

(1) 捜査比例の原則について、関連する条文を挙げつつ、説明しなさい。(10点)

(2) 予断排除の原則について、関連する条文を挙げつつ、説明しなさい。(10点)

II 以下の【事例】を読み、下記の〔問い〕に答えなさい。(80点)

### 【事例】

暴力団員のXは、平成30年9月11日、京都市中京区内の路上において、自転車で走行してきたVに立ち塞がる格好となり、Vと口論になった。Xは、身体をぶつけてくるVに対し、携帯していたカッターナイフで左腕を切り付け、1箇月の加療を要する傷害を負わせた。

司法警察員Pらは、上記事実で逮捕状の発付を受け、同月14日に、Xを、X方居室において逮捕した。Xを引致後、Pらは直ちに、Xと同居する暴力団員のYを立会人として、X方居室の捜索を行った。

Pが、X方居室の玄関脇の寝室に立ち入ったさい、同寝室内には、ベッドと3段の引出しがあるサイドテーブルが置かれていた。Pが、サイドテーブルの上段引出しを開けたところ、上段引出し内の手前側右付近に、血の付いたカッターナイフを発見した。そのため、Pは、上段引出し内のカッターナイフを近接撮影した〔写真撮影1〕。

Pが、サイドテーブルの中段引出しを開けたところ、中段引出し内の手前側中央付近にX名義の運転免許証を発見した。そのため、Pは、中段引出し内の運転免許証を近接撮影した〔写真撮影2〕。

さらに、Pが、サイドテーブルの下段引出しを開けたところ、下段引出し内の右側奥に、拳銃を発見した。Pが、Yに対し、「この拳銃は誰のものか。」と問いただすと、Yは、「知らない。そんな拳銃は初めて見た。」と答えた。Pは、下段引出し内の拳銃を近接撮影した〔写真撮影3〕。

〔問い〕

上記【事例】における〔写真撮影1〕、〔写真撮影2〕、〔写真撮影3〕について、それぞれ、適法か、違法か、論じなさい。